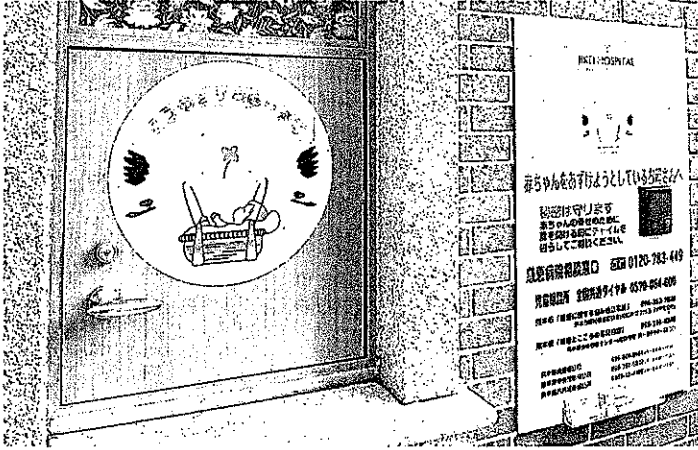


熊本市の慈恵病院に設置された「このとりのゆりかご」。扉を開けると中に保育器がある＝3月7日



熊本・運用10年

親が育てられない赤ちゃんを匿名で預け入れる国内唯一の施設「このとりのゆりかご」(赤ちゃんポスト)は10日、運用開始から10年となった。構想段階から賛否を巡る論争が続く中、2015年度までの9年間に125人の命が託された。

赤ちゃんポストに125人

生活困窮、未婚が理由

設置している慈恵病院(熊本市)の蓮田太二理事長は9日、市内で記者会見し「(妊娠・出産を)人に知られたくない人に、安心して赤ちゃんを預けてもらいたいと思って始めた。赤ちゃんの命を守るという点で役目を果たせたい」と述べた。運用開始は07年5月10日。捨てられる命を救うとの理念に対し、安易な育児放棄を懸念する声が出た。第1次政権当時の安倍晋三首相が「大変抵抗を感じる」と述べるなど、国も距離を置いた。

療が必要だった。

預けた理由(複数回答)は多い順に「生活困窮」32件、「未婚」27件、「世間体・戸籍」24件など。母親の年齢では20代が36%と最も多い。30代が約22%と続き、10代も12%と少なくない。預け入れ後

「このとりのゆりかご」親が育てられない子どもを匿名で受け入れる施設で、赤ちゃんポストとも呼ばれる。ドイツの先行例を参考に、熊本市の慈恵病院が2007年5月に導入した。外側から扉を開け保育室に赤ちゃんが預けられるとブザーが鳴り、職員が駆け付けて保護する。刑法(保護責任者遺棄罪)などの法令に触れないよう、児童相談所や警察と情報を共有し、連携する。市の専請部会が運用状況を定期的に検証している。

の行き先は、13年度末時点の101人の調査で、乳児院など施設30人、特別養子縁組29人、里親19人元の家18人、その他5人だった。

2月には神戸市の助産院による後に続く動きが明らかになったが、同市が求めた医師の常駐が難しく、見送られた。慈恵病院は24時間体制の妊娠相談にも力を入れ、16年度の件数は予期せぬ妊娠など6565件と過去最多だった。07年度からの10年間で、相談から294件の特別養子縁組につながった。

市の検証報告書によると、125人は、生後1カ月未満の新生児104人、1年未満の乳児14人、1年以上の幼児7人の男女。父母らの居住地は、北海道1人、東北3人、関東22人、中部11人、近畿10人、中国8人、四国1人、九州39人、国外1人、不明29人。預け入れは近年、年10人程度で推移し、虐待が疑われるケースはなかったが、29人は治